

声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2021(令和3年)6月1日発行 vol.245

法話特集

うやまうこころ ④
現代における友達の形 ⑤
還暦を直前にして今思うこと ⑥
「遇斯光ゆへ」の有り難さ ⑦
ぐしこう あ がた



おんどうぼう しゃかい うんどう じっせんうんどう
御同朋の社会をめざす運動(実践運動)って? ②、③
・如燈風中 ① ・教務所(別院)からのお知らせ ⑧

2021(令和3)年3月22日開催「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会の様子

如燈風中



泉井敬文

岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会委員長

「西方浄土」を思う
輪番室から目線を少し東側の窓に移すと、本願寺岐阜別院の正門と岐阜幼稚園が見えます。毎朝、園児たちは正門のところで、西側にある別院本堂に向かって元気に挨拶をし、そのあと幼稚園へと登園します。本堂に微笑ましい光景を毎朝目にする事ができます。

『仏説観無量寿経』には、韋提希夫人が自身の往生を願う、また、未来の衆生が往生できるように積尊に教えを請い、それに応じて説示した、定善十三観(浄土往生を願うために、精神を統一し、極楽世界を目の当たり観ることを順次に説かれる十三通りの観想)が説かれます。それは、まず西に沈む夕日を観想し憶念したのち、西方浄土の国土の有様(水、地、樹、宝など)を観想し、次いで、その国土の無量寿仏や、その左右脇仕である観音菩薩、勢至菩薩の姿を観想することです。

本山本願寺は、阿弥陀堂、御影堂の正面が東側にあり、そのそれぞれの東側に阿弥陀堂門、御影堂門と、寺院の正門として参拝者を境内へ迎え入れます(本願寺北境内地駐車場からの経路はさておき)。本願寺岐阜別院も本堂正面は東側を向いていて、その東側に正門があります。だいたい前になりますが、次のような質問をされたことがあります。「京都にある浄土真宗の各本山は、建物が全部、正面が東を向いているんですが、なぜですか?」と。私は京都に所在する、浄土真宗の各本山が建立されるときに由緒などが記されたものを見たことはありませんし、また、目の当たりに浄土を観想することも叶いません。しかし思うことは、阿弥陀様を東向きにご安置することで参拝者が西を向くことになり、浄土の莊嚴相を象った内陣のお莊嚴とともに「その仏国土の莊嚴相の功德(救いのはたらき)に想いを致し、念仏申せるように」との善知識のご教化によるものといったとき、日々、別院の本堂で西方浄土を思うのでした。



御同朋の社会をめざす運動 実践運動

って？

を行っていきます。コロナ情勢により、活動が制限されますが、教区・組が課題を共有し、実践目標の達成をめざし重点プロジェクトが充実したものになるよう、できることから実践していきましょう。

※1 SDGs(持続可能な開発目標)・・・「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。

※2 重点プロジェクト・・・実践運動総合基本計画に基づき、社会への具体的な貢献をめざし、実践目標を定め、年限を区切って取り組むものです。



◀ 丸一組西蓮寺 「みんなの食堂」

御同朋とは？

宗祖親鸞聖人は、阿弥陀さまの救いを依りごころとして、混迷した世の中にあつて、ともにお念仏を喜ぶ仲間を「も同朋」「御同行」と呼び、苦悩を抱える人々とともに生き抜かれました。

私たちの先人はそのお心を受け、「御同朋・御同行」として、み教えをまもり広めていこうと努めてこられました。

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)とは？

宗門では、1986(昭和61)年より「御同朋の社会をめざして」という目標を掲げ、「基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)」を進めてきました。

その成果をもとに従来の枠組みを超えた多様な活動を、より広く実践し、教えを広く伝えていくことをめざし、2012(平成24)年4月から、新たに「結ぶ絆から、広がるご縁へ」をスローガンに掲げ宗門全体で推進している活動

です。

「**自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する**」という基本理念を体して、宗門全ての人が参画し実践する運動です。

〈**貧困の克服に向けて**〉
「Dana for World Peace」
「**子どもたちを育むために**」
とは？

専如ご門主は、「**念仏者の生き方**」の中で、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題の一つとして、「**経済格差**」を指摘されています。世界の経済格差は富の偏在により深刻な貧困問題を引き起こし、実に多くの人々が貧困の状況におかれ悲しみ苦しんでおり、特に弱い立場である子どもや高齢者がその影響を強く受けています。さらに、この経済格差がもたらす貧困の問題は、紛争やテロを引き起こす大きな要因ともなっており、あらゆる人々が共に心安らぐことのできる平和な世界を実現するためにも、積極的に克服すべき課題です。と告示してくださいました。

さらに国際連合でSDGs(持続可能な開発目標)※1参照IIが採択され、

「誰一人取り残さない」の理念のもと、貧困問題に取り組んでいます。

これらの現状をふまえ、宗門では、平和に関する取り組みと、国内外の切迫した社会問題に対応し、寺院・門信徒が参画できる取り組みとして、〈**貧困の克服に向けて**〉「Dana for World Peace」〜「**子どもたちを育むために**」を重点プロジェクト※2参照IIの実践目標(実践運動総合基本計画)に基づき、具体的な実践目標を定め取り組むものとして定め、世界を視野に入れ長期展望に立ち、お釈迦さま以来、仏教が大切にしてきた「布施」の精神をもとに、できることから始めることにいたしました。

岐阜教区では

- 令和二年度、宗派総合基本計画・重点プロジェクトの周知
- 実践目標の理解に向けた研修会、学習会の実施
- 組、寺院の活動情報の収集と発信
- 宗派外活動情報の収集

「子どもたちの笑顔のために募金」現況報告

① 募金総額(収入)	1. 第2回集計分 募金総額	¥22,045,972
	2. 第1次支援よりの繰越金	¥11,897,505
	3. 預金利息	¥44
	収入合計	¥33,943,521
② 内訳(支出先)	1. 世界の子どもたちの笑顔を応援します	¥12,000,000
	2. 子どもたちの居場所づくりを応援します	¥6,000,000
	3. 施設に暮らす子どもたちの笑顔を応援します	¥7,000,000
	4. 諸費(事務費・手数料等)	¥2,000,000
	5. 繰越支援金	¥6,943,521
	支出合計	¥33,943,521

※上記は、2020(令和2)年度第2回「子どもたちの笑顔のために募金」管理委員会[2021.2.16開催]にて確認

どんなことに使われているの？

(1)世界の子どもたちの笑顔を応援します

① ネパール(セティデビ中学校)の設備工事費等(第1次よりの支援繰越分)	¥5,500,000
② ネパール(セティデビ中学校)の事務機器費等(第1次よりの支援繰越分)	¥500,000
③ ネパール(セティデビ中学校)の継続支援(第2次支援分)	¥5,000,000
④ 組・寺院等への海外支援助成金(支援金:1団体につき10万円 申請想定数10)	¥1,000,000
合計額	¥12,000,000

※①、②第1次より支援が見送られたため、このたびの支援

※③今後調査を行い支援内容の検討

※④第1次の組・寺院等への海外支援助成金の実績は、7団体70万円支援(1団体10万円支援)

(2)子どもたちの居場所づくりを応援します

① 「子ども食堂」活動助成金(支援金:1団体につき10万円 申請数50)	¥5,000,000
② 「学習支援」等活動助成金(支援金:1団体につき5万円 申請数20)	¥1,000,000
合計額	¥6,000,000

※①第1次の子ども食堂活動助成金の実績は、26団体130万円(1団体5万円支援)

※②第1次の学習支援活動助成金の実績は、6団体18万円支援(1団体3万円支援)

(3)施設に暮らす子どもたちの笑顔を応援します

① 本派加盟施設在園者(人数:600 支援金:10,000)	¥6,000,000
② 本派加盟施設卒園支援金(人数:50 支援金:20,000)	¥1,000,000
合計額	¥7,000,000

※①、②第1次の実績は、698万円支援(在園者は1人につき1万円、卒園者は1人につき合計3万円支援)

※上記は、2020(令和2)年度第2回「子どもたちの笑顔のために募金」管理委員会[2021.2.16開催]にて確認

「子どもたちの笑顔のために募金」ご協力をお願い

宗門では、自他共に心豊かな社会をめざす取り組みの一環として「子どもたちの笑顔のために募金」を行っています。この募金は、国外では海外にある西本願寺の関係機関などと連携して、貧困に苦しむ子どもたちを支援します。また、国内では子ども食堂や学習支援などの活動、児童養護施設などで暮らす子どもたちのために活用いたします。

定期的に『宗報』・本願寺派ホームページなどで取り組み状況をはじめ募金の使途を報告いたします。

郵便振替	口座名	子どもたちの笑顔のために募金
	口座番号	00940-8-282766
	※組単位での払い込みの際は、組名を明記してください。 領収書名を明記してください。	



▲西濃南組覚成寺 「たまにはお寺で心身脱落」

うやまうごころ



昔々あるお坊さんがおりました。彼はお経を読むこともしません。お説法をなされるわけでもありません。ただ毎日、雨の日も風の日も町に出て、道行く人々に向かつて手を合わせ続けました。「わたしはあなたたちをうやまいます。決して馬鹿にしたりはしません。なぜなら、あなたたちはみんなやがてかならず仏さまになる人々なのですから」彼は道行く一人一人にそのように語りかけました。

それを聞いた人々は最初驚きましたが、なんども言われるうちに、からかわれているように思えてきました。そしてついには怒りはじめてしまったのです。町の人たちは、持っていた杖でこのお坊さんを殴りつけ、時には石を投げつけたりもしました。そのたびにこのお坊さんは一生懸命ひたすら逃げていきます。しかし、また遠くから「わたしはあなたをうやまいます。決して馬鹿にしたりはしません。あなたたちはやがてかならず仏さまになるのです」と大きな声で語りかけるのです。

月日が流れ、やがて町の人たちは、誰

からともなくこのお坊さんを常不軽菩薩（じょうぶきようぼさつ）、常に人を軽んじないお坊さんと呼び、手を合わせるようになったそうです。

少し前、勝ち組負け組という言葉が流行りました。私たちは周りの人を見ては勝つたと見下し、負ければどうして私は…とひがむ生き物なのでしょう。そんな中、あらゆる人を軽んじず、うやまう心をわすれなかった常不軽菩薩の尊い姿に、私は胸を打たれます。

人をうやまい大切にするとともに、自らもうやまわれる——お互いがお互いを大切にし、手を合わせ合う世界が開けてくる。そんなことを私はこのお話から思うのです。

また、昔のお坊さんの言葉があります。

「雨が降ると水は山頂にとどまらず、必ず低いところに流れていく。もし人が傲慢なところをもって自分だけが正しいと思っているならば、仏法の水は入ってこない。もし善き先生をうやまうところがあるならば、自然とその徳がそなわってくる」という

ものです。

自分はえらい、自分の考えこそが正しいと何かを掴み、それにとらわれている間は仏さまのお言葉は耳に入っていないということですね。

では、善き先生とはどこにおられるのでしょうか？

かつて西元宗助というお方は、ご自身の先生をこうご紹介されました。「私の先生は、どんなお方に対しても、どこか拝むような気持ちをもっておられました」。

そして、さらにこの先生の先生であるお方はこんなお歌を詠んでおられます。

み仏の影さまさまにあらわれぬ

同朋知識ひとびとのうえ

ここで同朋とは友達、知識とは先輩を言います。周りにおられるどんなお方の上にも仏様、つまり手を合わせうやまうことのできる先生をご覧になっていかれたのです。4月になり新しい生活が始まりました。きつと色んな出会いがあるでしょう。子どもであれ、大人であれ、出会っていくすべての人をうやまい、手を合わせる心を忘れないようにしたいものですね。

本願寺派布教使
西濃北組等光寺

石井 法水

現代における友達の形



コロナウイルス感染症の影響により今までに経験したことのない時代に突入しているといっても過言ではないのかもしれない。オンラインという言葉が当たり前になりましたがズームが新しいわけではなく、数年前から活用されていたコンテンツが一気に普及したことにより、仕事や会議はもちろんのこと、いまやお寺の法要にも活用されています。時代の流れと状況に合わせて対応していくということは大切なことです。しかしすべてが正しいということではありません。

新しい時代に突入すると「昔では考えられない」という表現をします。

インターネット、スマートフォンの普及により私たちの生活は明らかに変化したと言えるでしょう。この先、どんな変化をしていくのでしょうか？お寺にお参りに行くということも変化していくのかもしれないですね。ただ、失くしてはいけなない大切なものまで変化しているという現実には寂しさを感じているのも事実です。

部屋に閉じこもりスマートフォンに向かう若者たち。ここに新しい形の仲間意識が

生まれています。インターネットの普及により世界中の人とつながりが持てるようになった世の中ではある。しかし、それは本当に友達や知り合いと言えるのであろうか？顔も名前も知らない友達。電波という目に見えないものが人と人をつないでいる世界なのである。相手の目を見て話す、手をつなぎ、肩を組み語り合うのが本当の友達じゃないのか？そう言うと、もはや「昭和の時代」と言われてしまう。昭和でもかまわない。大切なのは今があるのは歴史の積み重ねであるということだ。生まれた頃からスマートフォンしか見たことが無いから、それが当たり前だと思ふことはいいが、スマートフォンにたどり着くまでに何があったのか、どれだけの人が関わり、どれだけの苦労があったのかを知らなくては行けない。ガラケー、折畳み式、白黒、カタカナ表記、シヨルダー式。さかのぼってみ

れば今では考えられないスタイルなのかもしれない。でもいざれスマートフォンが古臭い時代が来るのだから。その時の若者に言われるだろう「令和の時代」と。今、自分たちが生きている世界が全てじゃない。昔という歴史があるから今があるのである。その時代を生きて、今の時代の基礎を築いてくれた先人たちに感謝するのは当たり前なことだ。昔の生活に戻る必要はない。昔がすべて正しいわけでもない。ただ、時代が変わったということを言い訳にしてはいけない、若者も中年も高齢者も。古臭い考えに合わせる必要はないが学ぶ必要はある。新しいことに挑戦する必要はないが知る必要はある。インターネットで世界中に友達がいることは凄いいことだ。でも手が届く場所にいる大切な存在も必要ではないだろうか。「二人いて喜ばば二人と思ふべし、二人いて喜ばば三人(みたり)と思ふべし、その一人は親鸞なり」こんな時代だからこそ大切にしたい言葉ではないだろうか。

本願寺派布教使
長良組妙徳寺

おの 大野 だいに 大信

還暦を直前にして今想うこと



私は今年の二月(昭和三十七年生まれ)に五十九回目の誕生日を迎えました。来年はいよいよ「還暦」の仲間入りです。「還暦」とは、六十種類の干支(十二支と十干の組み合わせ)が関係しており、人間として生まれて六十年が経ちますと、干支が一巡することからそのように呼ぶようになったと言われています。つまり、自分自身が生まれた姿(赤ん坊)に戻るという意味です。

私には今年の六月で二歳になる女の子の孫(長女の第一子)がいます。長女夫婦が近郊に居住していますので、週に三回ぐらいは実家のお寺に遊びに来てくれます。最近では、孫が来たときは一緒に夕事勤行を勤めるのが日課になっています。「讃仏偈」のお勤めをしながら、孫と一緒に仏さまの声を聞いて手を合わせている姿に、私自身が赤ん坊の頃に戻ったような感覚にとらわれます。

この「還暦」の「還」という字は、浄土真宗では大変重要なキーワードになっています。二〇二二(令和五)年に「親鸞聖人御誕

生八五〇年立教開宗八〇〇年慶讃法要」が本山で厳修されますが、浄土真宗における立教開宗というのは、親鸞聖人が『顕浄土真実教行証文類』を撰述し、『仏説無量寿経』の教説にもとづいて往相(衆生が浄土にうまれゆくすがた)・還相(再び迷いの世界に還り来て他の衆生を教化する姿、また仏果を極めた者が菩薩の相を現すこと)の二回向を骨子とする教義体系をあきらかにしたことによるとされています。この往相・還相は、『正信偈』に「往還回向由他力」とありますように、両方とも阿弥陀如来のはたらき(本願力回向)によるものであり、往相と還相は別々ではなく同時にいたたくというのが親鸞聖人のご理解であったと、私自身はお聞かせいただいております。

応はなく、そんな義父の姿を見ながら、「義父は何のために生きているのだろうか」と、当時は心の中の葛藤に苦しみました。しかし、あの時の義父は「私は単に死んでいくいのちを生きているのではない。仏に成るいのちを今生きている。仏に成るといいうことは同時に還るいのちを生きているということだ。この身はたとえ療養の身であっても、阿弥陀さまのお慈悲の中でこの姿を通して、私に出来る精一杯の慈悲の実践をしているんだよ」と、私に身をもって説法してくれていたのだと、今では受け止めさせていただいております。

「還暦」を直前にして今想うことは、私自身が赤ん坊の頃にもう一度戻って、生まれがたい人間に生まれさせていただいたお恵みの「いのち」に感謝させていただき、浄土に生まれて還るいのちをいただいている身をよるこび、常に他を思いやる慈悲の実践者としての歩みをしていく大切な節目であると、深く感じるこの頃です。

本願寺派布教使
西濃南組浄円寺

富田祐尊

「ぐしこう遇斯光ゆへ」のあ有り難がたさ



第十八回東京五輪の翌年、初任教員として奉職し、在職七年間に出合った彼女たちはすでに還暦を超えた。「金の卵」と重宝され紡績工場で働き学ぶ生徒が語る言葉には、親や故郷との別離の悲しみと日常生活の厳しさがあった。「歯を食いしばって頑張れ、皆に迷惑を掛けるな、どんなことがあっても帰ってくるな」等と、目に涙をため言った親の言葉を胸に、精一杯頑張るけなげな姿は、五十年経過しても脳裏に焼き付いて忘れられない。

令和三年四月某日の早朝、電話の呼び鈴が鳴った。「もしもし、私は花子(仮名)です。先生はお忘れでしょうが私は六十六歳になりました。先生がお坊さんであることを知っていたので、何とかして電話をと思つて」と、親しみある声が聞こえて来た。電話は、高校卒業後の苦悩やさまざまな辛苦に向きあった生活を通して、受けた全てを仏縁と味わい、「ほとけさま」に出あえた確かさを感じさせる内容であった。

電話は、親の願いに背くまいと歯を食いしばり、望郷の思いに枕を濡らした四年間のことに始まり、十九歳での結婚、二人の子育て、住宅取得のためにがむしゃらに働いた夫婦共働生活。中学を卒業し集団就職列車に乗り込む朝、バス停まで涙ながらに自転車ですべてくれた父親が四十歳で病死されたこと、独居生活となった母一人の貧農生活などと、一口一口噛みしめるような話し声であった。

彼女が職場を定年退職した三月頃から、「熊本へ帰ってきてくれ」と、母親から涙声の電話が度重なった。止む無く家族を説き伏せ、住宅を手放し、一年後の四月に実家の敷地内に新居を完成させた。母親の待つ熊本へ転住する予定の四日前に熊本地震が発生し、旧家屋に居た母親は仏壇に手を差し入れたままの姿で亡くなった。倒壊を免れた新居に御仏壇をお迎えし、朝晩のお参りが始まり、合掌の日々が続いた。今は手を合わせる時間が楽しみになり、悲し涙が

喜び涙に変わったという。

彼女が言うには、「手を合わす暇さえなく、がむしゃらに働いた私の人生だった。しかし、熊本を離れるときに両親が見せた涙は、私の今までを支える涙となり、今も乾くことなく流れていることに気づきました。両親は亡くなったが、両親の涙は私の涙の中に混じっているような気がします。そして、今は、その涙は私の心の『ぬくもり』となり合掌する手の平に感じる事ができます。母の月忌に住職様から『法蔵菩薩さまの涙』の話を聞いています。「私は、『南無阿弥陀仏』の仏さまに遇えて本当に嬉しいです」と話が続いた。

戦後日本の復興復旧の原動力となった世代は、今もなお生涯壮年の時空を過ごしている。彼女の流した涙は、大慈大悲の「如来さま」の涙でもあったと味わい、仏前に合掌する彼女の姿が目につかんだ。正に「遇斯光ゆへ」の有り難さと、聞かせてもらいました。

合掌

本願寺派布教使
中川北組光輪寺

中島洋晃

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」

スローガン・ロゴマークについて

2023(令和5)年にお迎えいたします親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のスローガン・ロゴマークが決まりました。

スローガン・・・ご縁を慶び、お念仏とともに

ロゴマーク・・・



このスローガンの策定意図を基にして、親鸞聖人の命の灯が、人々を救い、教えを広める様子をイメージしてロゴマークを制作しました。親鸞聖人を中心に、手を合わせる人々が一つに集い、共に生きていく姿を、蓮の形で表現しています。

(浄土真宗本願寺派トピックス2020・10・01より抜粋)

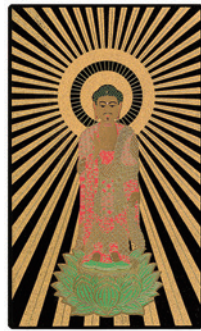
「西本願寺の時間」終了について

毎週土曜日午前6時25分～6時35分放送の「西本願寺の時間」は、2021(令和3)年3月31日をもって、岐阜県での放送を終了させていただきました。長年にわたり御拝聴いただき誠にありがとうございました。

新免物制定について

このたび、新たに在家免物に携行本尊(絵像)が制定されましたのでお知らせいたします。

1. 名称 携行本尊(絵像)
2. 使用 表面 阿弥陀如来像
裏面 裏書：龍谷山本願寺、本願寺印
3. サイズ 縦90mm 横55mm 厚さ2mm
※漆ブラック調 バイオプラスチック素材
4. 冥加金 1万円
5. 授与開始日 2021(令和3)年4月1日



携行本尊(表面)



携行本尊(裏面)

書籍のご案内 2020(令和2)年10月22日 発売
(株)幻冬舎 発行

浄土真宗本願寺派 第二十五代門主

大谷 光淳 著

『令和版 仏の教え』



大谷光淳ご門主さまご著書。
あなたの素朴な疑問に、ご門主さまが
一問一答形式で優しく答えます。

お知らせ

2021(令和3)年度

『重点プロジェクト研修会』

- ・期日 6月8日(火)
- ・時間 午後1時～2時半
- ・ご講師 重点プロジェクト推進室

部長 中井真人

- ・会場 本堂・オンライン
- ・対象 教区内僧侶、門信徒

岐阜別院

『黎明講座』

- ・期日 8月1日(日)・
8月3日(火)

- ・時間 午前7時～8時30分

- ・場所 本願寺岐阜別院 本堂

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる場合があります。詳細は本願寺岐阜別院ホームページまたは本願寺岐阜別院にお問い合わせください。

YouTubeチャンネル 「本願寺岐阜別院」について

岐阜別院の法要の様子を生配信いたしますのでご覧ください。

YouTube 本願寺岐阜別院

またはQRコードを読み取りご視聴ください。

